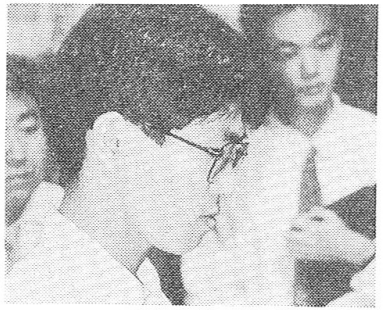
佐々木秀樹前最強位を中心に決勝出場メンバー。



読者代表(河本正敏氏)も健闘。

牌譜4

実力者・飯田正人、豪快に決勝進出。

惜しい、あと一歩の井出洋介。

今年こそ真険勝負！ タキシードできめるバビィ(馬場裕一)。

ヤンスをもらった放銃だ。事の成り行きに逆らえることができるのである。

山田にとっては3400点差も4900点差も同じことだ。[牌]で終局していたはずがもう一度取り直しなのである。

1本場(牌譜4)。ここである。ここが勝負どころなのである。こういうときだからこそ、小島にも手が入る。山田にもやはり手が入る。お互いがぶつかる。

小島はリーヅモ、タンヤオでもいい。7巡目、[牌]

ところだろう。つまりは、佐々木に本領発揮の場なし。

さて、山田VS小島である。1回戦の焦点はもはや、この対決のみ。しかし、結論からいえば1回戦でほぼ態勢が決定してしまうことになるのだが……。

東3局1本場。ドラ[牌]。親の山田が、[牌]

7巡目、ここから[牌]、[牌]をポン。[牌]に[牌]をひいてテンパイ。次に[牌]をひき、[牌]を飯田から出アガリ。1800O。(タンヤオ トイトイ ドラ3)小島を離す。が、1800Oも決定打ではなく経過にすぎない。勝負どころはこれからくる。

南1局。山田 61600点。小島 37800点。この局、小島が佐々木からリーチ、三色裏ドラ1(8000)を出アガリ。[牌]

さらに山田の親(南3局1本場)でタンヤオ、ドラ3をツモあがって——(ドラ[牌])[牌]

小島は山田との差を3400点としてオーラスを迎えた。

ドラは[牌](牌譜3)。勝負がかりであることはいうまでもないが、結果をみるかぎり、勝負どころではなかった。この局は山田が[牌]でアガって幕をひくべきところ。山田の半荘だったということで、次の半荘へと進むのが事の成り行きであったが、飯田が連荘狙いのクイタン。それに小島が決して十分とはいえない沙汰[illegible]

打[牌]。

一方、山田——[牌]

一歩もひけない山田は[牌]を[牌]で食って打[牌]。ムダのないクイタン一直線。

小島——張れない。なかなかテンパれない。山田が2フーロで逃げ切った。

山田の勝ちはほぼ確実。2回戦はあってないようなもの。

東1局。山田の親で、[牌]

メンタンピン、ツモ、三色、ドラ1([牌])。6000Oオールで優勝決定。

仮に、山田が1回戦のオーラスで、[牌]で事の成り行き通りアガっていれば、勝負どころは2回戦に持ち越されたであろうから、こうあっさりと6000Oオールができてはいないだろう。

勝負どころを制し、揺るぎない摸打でみごと最強位に就いた山田英樹さん、おめでとう。